

藤元議員 それでは、3点について質問させていただきます。最初に多文化共生社会を目指す取り組みについてお伺いします。今更、私が言うまでもありませんが、多文化共生社会とは、国籍、民族、文化、宗教などが異なる人々が、お互いの違いを尊重し認め合い、対等な立場で地域社会の一員として共に暮らし、共に社会を築いていく社会のことと言われています。もっと簡単に言えば、日本人も外国人も含め、誰もが安心して暮らし、活躍できる社会を目指す考え方と言って良いと思います。私がこどもの頃は、外国人を見掛けるなどということは、ほとんどありませんでしたが、今は、遍路姿で国道を歩いたり、自転車で旅をする外国人を良く見掛けるようになりました。年間では、海外から4千万人ほどの観光客が来日されているようです。また、日本に住む外国人も増える傾向で中長期在留者と特別永住者を合わせると400万人近くになるのだそうです。逆に、日本から海外に旅行される方も増えていまして、今年1月から9月までの累計では約1千万人になっています。また、海外に住む日本人も130万人ほどに増えています。牟岐町のような田舎町におきましても、牟岐漁港で釣りをしていたら隣の釣り人が外国人だったりしますし、こどもを送り迎えする外国人のお母さんの姿を度々見掛けるよう状況になってきました。言語や宗教の違い、生活習慣の違いなどで異国で仕事をしたり、子育てをするのは大変だと思いますが、縁あって牟岐町を選んで頂いたということですから滞在期間が1年になるのか2年になるのか、それとも一生になるのか分かりませんが、牟岐町で住まわれている外国人の方々には、牟岐での生活が有意義で楽しかったと提供いただければ幸いです。今は、どこにいても情報が瞬時に伝わる世界になって来ています。景色が気に入った〇〇国に住みたいとか、〇〇国で勉強して自分の国の発展に貢献したいとか、動機は様々だと思いますが、戦争やコロナ感染のようなことがなければ、今後も、国境を越えた人の流れは一層加速されるものと思われまます。しかし、現在の日本において、参院選後、特に酷くなったと思いますが、SNSやユーチューブなどを通して、外国人に対する差別や差別を煽るような言動が目だつようになってまいりました。投稿者の顔が見えないためなのか、それはそれは酷い内容です。事実に基づくものならまだしも、外国人の犯罪が増えている。外国人は直ぐに生活保護が受けられ、3割が生活保護を受けているなど、根拠がないデマ情報がさも真実かのように流され拡散されています。6月頃だったでしょうか、国内の大手新聞社が一斉にファクトチェックの結果を報道しました。しかし、その後も、外国人に対する差別、差別を煽るような情報であふれています。私が観たユーチューブで、これはいくら何でも酷すぎると思ったのを紹介しますと、どこの政党、政治団体だったか不明です

が、外国人をゴキブリにたとえ、1匹いれば周りに千匹いる。全部駆除しようという内容でした。こんなことが街頭から白昼公然と語られ、それがユーチューブで拡散されています。今は削除されたようですが、いくら外国人が嫌いだと言っても、同じ日本人としてそんな言葉は使って欲しくないなと思いました。さらに、ここまで来たかと思いますが、帰化人だとして大臣や国会議員の名簿までネットで公開される事態になっています。確かに、言語や生活習慣が違う外国人ですから、一部に日本人とのトラブルはあるかもしれません。ただ、デマ情報をもとに外国人全体にレッテルを張り、攻撃したり排除しようとするのは余りにも冷静さを欠いた行動と言わなければなりません。2016年、ヘイトスピーチ防止法が施行されています。正式名は「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取り組みの推進に関する法律」と言いますが、本邦とは日本人のこと。したがって本邦外出身者とは外国人のことであり、外国人に対する不当な差別的言動の解消を目的とする法律です。罰則はありませんが、国や地方自治体にもその取り組み、国民にも差別のない社会実現のために寄与することとされています。私は、日本人であるし、外国人を含めた住民の福祉の増進に関わる議員の一人として、先に述べたような事態を看過すべきでないという思いで質問させていただきます。本町の場合は、牟岐町総合計画においても人権の尊重、国際交流・国際化教育の推進を掲げ、学校教育や社会教育を通じて国内外との多様な交流を通じて異なる文化や価値観への理解を促進し、国際性豊かな人材の育成に努めています。何より牟岐町の住民のみなさんの町民性から、今まで述べたような事態は牟岐町では起こっていない、今後も起こることはないと思っていますが、事は、社会問題に発展しつつあるので、改めてお伺いします。そもそも牟岐町には、どれほどの外国人の方がおいでなのか最初にお伺いします。次に、先に述べてきたように、外国人排斥の動きについて、どのような認識をお持ちなのかお伺いします。次に、本町学校に外国人の児童・生徒が通っている場合、言語や生活習慣の違いから特別な対応が必要かもしれません。実際のところはどうなのか、どのような対応をしているのかお伺いします。次に、牟岐町に在住する外国人に対し、特別に優遇しているような施策があるかどうか。そして、住民とのトラブルなど問題になっていることがあるかをお伺いし、次の質問に移ります。次に、千年サンゴの有効活用についてお伺いします。この件については、2023年9月議会でも質問させていただきましたが、人口減少、少子高齢化等の進行とともに本町の経済的低迷は更に深刻になっています。もちろん、本町としても様々な施策を講じているわけではありますが、本町にとって重要産業であった農林漁業は衰退の一途をたどっています。かつては漁師町と呼ばれ活

気のある町でしたが、組合から頂いた資料によると、1975年（昭和50年）頃を境に漁獲量、水揚げ額とも年々減少し、今また、新たなことに挑戦していますが、古牟岐で長年行われていた稚貝の養殖場が廃止されました。農業についても、耕作放棄地が増え続け、新規就農者ゼロが何年も続いており、存続の危機が迫っています。このまま推移すれば農業・農村の多面的機能が果たせなくなります。農業者からは、もう若くないし「今の機械が壊れたら農業はやめる。後継ぎはいない」との嘆きの声が聞こえてきます。また、人口減とともに身近にあった商店が次々に姿を消しています。もちろん、人口減少、少子高齢化、地場産業の衰退などというのは、牟岐町だけではなく、全国の自治体が抱えている共通の問題でもあります。牟岐町にとって、更なる打撃になると思われるのが国道55線バイパス工事の完成です。もちろん、大災害時には、もしかしたら緊急の避難場所になるかもしれないし、緊急物資の運搬に役立つかもしれません。また、交通事故が減ったり町も静かになるかもしれません。しかし、国交省の資料によりますと、バイパス工事完成後には、バイパス道路の一日の交通量は、5,600台になり、現在の国道55号線は500台と激減することが予想されています。ほとんどの車は、バイパス道路を走るということでもあります。そうなればたちまちガソリンスタンド、コンビニ、食堂などは、直接大きな打撃を受けることになり、関連業者にも影響が及ぶことになります。したがって、あまり時間はありませんが、バイパスが完成する近い将来のことを考え、地場産業の振興に引き続き取り組みながらも、牟岐町の魅力度アップを図り、定住者、関係人口・交流人口を増やすことを今まで以上に真剣に考えなければならぬのではないのでしょうか。牟岐町に長年住んでいる人は感じなくなっているかもしれませんが、牟岐町の自然環境は素晴らしく、出羽島や大島、そして、大島湾に眠る日本では最大級、最長寿のサンゴと言われている千年サンゴを観光資源として、もっと生かさなければならぬのではないのでしょうか。千年サンゴは、高さ約9m、外周約30mのハマコブサンゴでありまして、その大きさ、年齢、そして、その形がクリスマスツリーの形をしているというのも世界的に珍しいサンゴだというふうに言われています。こんな貴重なサンゴを大島湾に静かに寝かしておくのは余りにも勿体ないのではないのでしょうか。上手く活用できれば世界中から人が集まる観光地になる可能性があると言われていています。もちろん、漁師の方々、島の持ち主との協議・承諾が必要なのは言うまでもありませんが、この方向でなければ牟岐町の危機を脱することはできないのではないかというふうに思います。そこでお伺いします。千年サンゴが素晴らしい観光資源だと言っても、一朝一夕に観光地になるわけではもちろんありません。まずは、

多くの観光客に来てもらうためには、継続的なコマーシャルや取り組みが必要です。2016年12月には盛大な式典が行われましたが、その後、12月7日の「千年サンゴの日」は何度もありましたが、目に見えた取り組みは行われてきませんでした。今年も12月7日は何事もなく過ぎ去っていきました。このままでは、牟岐町の住民さえ千年サンゴのことは記憶から消えてしまうのではないのでしょうか。ぜひ今後、「千年サンゴの日」には、何らかの催しを計画していただきたいと思いますが如何でしょうか。次の質問に移りますが、徳島新聞の記事で「千年サンゴの日」が今日まで生かされなかった理由が分かりました。確かにダイビング事業者が撤退したことから潜ることができなくなり、情報発信が難しくなったというのは理解できます。ただ、潜って観てもらおうとなると人数が限られます。例えば船の上からカメラを下ろし、観光客にはモニターで観てもらおう。また、先ほど、水田議員の質問の中にも出てきましたけど、水中ドローンで、モニターでまた船の上から、その画像を観てもらおう。そのようなことも考えてはどうでしょうか。そして、もともと大島にも歩ける道があるので、手を加えれば雄大な景色を観ながらのウォーキングも楽しめるようになるのではないのでしょうか。とにかく事務局の県南部県民局保健福祉環境部が主張するように、「取り組みを進めるのであれば、まず記念日を制定した町が具体案を提示して欲しい」というのはその通りだと思います。具体的なプランがなければコマーシャルをしようがないし、取り組みもできません。何度も言いますが、大島や出羽島、千年サンゴを上手く活用すれば世界から観光客が集まる観光地になる可能性があると思います。具体的なプランはあるのでしょうか。ないとすれば是非作っていただきたいと思いますが如何でしょうか。次の質問に移ります。政府が行った2013年から15年にかけて行った生活保護費減額については、違法判決が確定しましたので、この件についてお伺いします。憲法、生活保護法に基づき生活困窮者には、住んでいる地域、家族の数などに応じて保護費が決定され支給される仕組みになっています。また、他の様々な制度と関連しており、保護基準額は、例えば、就学援助額にも影響します。自分には、関係ない制度と思われる方が多いのですが、思わぬ事故等で体が不自由になり、また、他人からは分かりにくいのですが、心の病等で働けなくなる場合があります。全国的には、本年8月時点で約165万世帯、約199万人が受給していると言われていています。憲法25条は、健康で文化的な最低限の生活を保障するとなっていますが、現在の保護基準では実際の暮らしは大変で、政府の違法な扱いで更に減額されたということですから、政府は、対象者に対し謝罪が必要だし、不法に減額した分は全額補償するのが当然だというふうに思います。そこでお伺いします。本

町での対象者は何人でしょうか、また補償内容について把握していれば報告していただきたいと思いますが如何でしょうか。以上で質問を終わります。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 藤元議員ご質問の、多文化共生社会を目指す取り組みについて、お答えいたします。外国人を排斥するような動きについては、牟岐町では排斥するような動きは承知していません。本町在住の外国籍の方は39名です。また、特別に優遇しているような施策は、ありません。住民とのトラブルなど問題になっていることも、承知していません。次に、「千年サンゴの有効活用について」のご質問にお答えします。現在、千年サンゴと生きるまちづくり協議会において、千年サンゴ周辺を起点とした生物等の調査やサンゴに係る経年変化を調査する生物環境調査やオニヒトデなどのサンゴ食害生物の駆除するサンゴ保全活動を実施しています。また、環境学習・イベントの開催としまして、小学校への出前講座・地域特有の生物多様性の魅力等を知り、海洋環境保全の大切さへの理解を深める機会として、シュノーケリング体験教室を開催しています。千年サンゴを活用した地域活性化やPRの実施として、町内外におけるイベント等において、世界的にも希少な郷土の自然財産である「千年サンゴ」とその保全活動についてPR活動を展開するとともに、「千年サンゴ」サポーターを募集し、この活動への理解と支援の輪の拡大を図っています。日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産として「千年サンゴ」保全プロジェクトが登録されました。この登録を契機として、12月7日が「千年サンゴの日」と制定されました。今後、12月7日「千年サンゴの日」に千年サンゴと生きるまちづくり協議会など関係機関と協議のうえ、千年サンゴの保全活動などの取り組みについて町民の皆様などにアピールできるように検討してまいります。現在、牟岐町では観光VRコンテンツ海中映像制作業務を発注し、制作に取り組んでいます。内容としましては、千年サンゴを純粋に美しく端的に伝えるものと釣り・SUP・シュノーケリングなどマリンアクティビティを伝えるものを制作予定です。今後は、観光VRコンテンツを有効に活用し、マリンアクティビティに取り組む事業者と連携し、地元の漁協や渡船事業者との協議を行いながら観光誘客につなげてまいります。牟岐町の誇れる自然財産であるコブハマサンゴ「千年サンゴ」をシンボルとする豊かな自然を守り、次世代に継承するため、地元住民・団体等が一層の連携体制のもと、それぞれの役割に

応じた持続的な環境保全活動を推進するとともに、自然を活かした牟岐の魅力を創出することで地域活性化につなげて参りたいと思います。私からは以上です。外国人の児童生徒に対する学校での対応につきましては教育長、生活保護費減額の違法判決については担当課長よりご答弁させていただきます。よろしく申し上げます。

喜田議長 今津教育長。

(今津教育長 登壇)

今津教育長 藤元議員の外国人の児童生徒に対する学校での対応についてお答えします。現在、日本の小中学校には、外国にルーツを持つ児童生徒が多数在籍しています。文部科学省の調査によりますと、公立の小中学校に在籍する外国籍の児童生徒数は、年々増加傾向にあり、日本語指導が必要な児童生徒も同様に増加していると認識しています。また、牟岐町も今後同様だと考えられます。このような状況を踏まえ、教育委員会としましては、全てのこどもたちが安心して学校生活を送り、健やかに学べる環境を確保することが極めて重要であると考えて、次の2点について取り組みを進めています。1つ目は、人権教育の推進です。本町の小中学校におきましては、学習指導要領に基づき、外国籍の方々への差別の解消を含む人権尊重の理念を、学校教育活動全体を通して推進しています。具体的には、道徳科、社会科、そして総合的な学習の時間などを中心に、多様な文化や価値観を相互に理解し、尊重し合い、共に生きていく力を育む教育を実践しています。一例を申し上げますと、昨年度、牟岐小学校が「徳島県小学校人権教育研究大会」の会場校となり、公開授業を実施しました。その中の一つのクラスでは、「仲間づくり」を主題とし、世界には多様な文化や習慣が存在することを学び、外国から来られた方々の思いを理解することで、一方的な見方や思い込みにとらわれることなく、共に学び、共に生きていこうとする態度を育むことを目標として授業を展開していました。この授業を通じ、児童は外国から来た人の気持ちに寄り添い、自分のできることを考えて行動しようとする意欲を高め、差別のない公正な社会の実現に向けた意識を育んだものと報告を受けています。2つ目は、多文化共生に向けた環境整備です。海外からの一時帰国した児童生徒を積極的に受け入れ、在校生との交流学習の機会を設けることや、地域にお住まいの海外にルーツを持つ方々を講師として授業にお招きし、その国の文化や習慣についてご紹介いただくことなどを通して、異文化への理解と関心を深め、相互理解の促進を図っています。また、

宗教上の理由により、食事や生活習慣において配慮が必要な児童生徒につきましても、保護者と連携を図りながら、学校として可能な範囲で配慮を行い、当該児童生徒が安心して学校生活を送れますよう、支援に努めているところです。教育委員会としましては、これらの取り組みを継続・発展させることを通じ、差別のない地域社会の実現を目指すとともに、多様性を受容し、グローバルな社会でたくましく生き抜くことのできる人材の育成に、今後とも全力で努めてまいります。

喜田議長 海部住民福祉課長。

(海部住民福祉課長 登壇)

海部住民福祉課長 私からは、生活保護費減額の違法判決についてお答えさせていただきます。生活保護については、住民福祉課で相談を受け、後日、南部総合県民局保健福祉環境部ケースワーカーと面談をし、申請することとなっています。その後、生活保護の決定、保護費の計算、また、保護費支給については県民局が行うこととなっています。これは本町を含む福祉事務所のない海部郡3町及び那賀町でも同様です。このためご質問の対象人数、また、補償内容については各町では解らないのが現状です。県民局に問い合わせましたが、この件について、今後、引き下げられた保護費について、追加支給されると思いますが、厚生労働省から方針を示されていないので、対象者についても、現在は解りませんと返答いただいています。以上です。よろしくお願いいたします。

喜田議長 藤元議員。

藤元議員 町長の方から、町内においては、外国人を排斥するような動きはないということでした。それは非常にうれしい話ですけど、私が聞いたかったのは、それもそうなのですが、やっぱり今は本当に、先ほど紹介もしましたけど、社会全体が本当に変な方向にいつているのではないかと。外国人排斥するとか、教育長が言われたように全国でそういう人権教育もやってきて、この外国人も含めて、人権を尊重するのは当たり前前の世の中になっていると思うのですが、先ほど紹介しましたように、本当に酷い状況が起こっているわけです。そこらの認識も一度聞かせていただけたらというふうに思います。それから、12月7日、これは確認になるのですが、今後は、12月7日、

千年サンゴの日の何等かの事業と言いますか、催しをやっていくというふうに理解してもよろしいでしょうか。それと、いろんな千年サンゴを生かすという取り組みをされているまで聞かせていただきましたけど、もう一步、せっかくの本当に世界的に誇れる観光資源として、本当に生かしていかないといけないというふうに思うので、今まで以上のことを取り組む必要があるのではないかというふうに、これは町民の皆さん方がお聞きする話ですので、千年サンゴについては、12月7日、今後は、いろんな取り組みをやっていくのかどうか、さらに、千年サンゴを活かした、今まで以上に、皆さんからいろんな知恵を出し合って、やっていく気持ちはないのかどうかということを再問させていただきます。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 藤元議員の再問にお答えします。この件につきましての認識、多文化共生社会を目指す取り組みについてというところですが、今まで差別につきまして、長い間残ってしまっていて、また、インターネットの普及に伴い新たな差別なども出ていますので、完全になくすというのは、なかなか難しいことであると思っておりますが、牟岐町としましては、人権教育協議会を通じまして、各町民に対して出前講座、いろんな活動をしていただいておりますので、差別が牟岐町では差別がない町、人権尊重社会の実現を目指して取り組んでいるというところを理解していただけるよう、連携してまいりたいと思っております。また、外国人、私の家にしましても、長い間、フィリピンの方が特養に勤められて住んでいましたが、そういう方からもそういうような不満等々は聞いたこともありません。現在は住んでいないので、よく理解は分かりませんが、そういうことでした。千年サンゴの活用につきましては、これもまだ先の話になるとは思いますが、一つふるさと納税の返礼品とか、できる限り使っていけたらと思っておりますが、やはり潜っていたかなければ実際のコブハマサンゴ、千年サンゴは観られませんので、そちらの方も考えていきたいと思っております。また、いろいろイベントごとには千年サンゴのPRもしていきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

喜田議長 藤元議員。

藤元議員 明快に答えていただいたら良いと思うのですがね。そのサンゴの件、12月7日、千年サンゴの日、今後、いろんな形でやっていくと、この答弁はなかったと思うのですが、どうでしょう。

喜田議長 枅富町長。

(枅富町長 登壇)

枅富町長 いろんなイベントのあるごとに取り組んでいくとお答えしたつもりでしたが、私も残念ながら、恥ずかしいことに、12月7日の千年サンゴの日というのを、今回の徳島新聞さんの取材のときに思い出したんです。議員のときに設定したはずなのですが、これから様々な機会を捉えPRをしていきたいと思えます。

喜田議長 藤元議員。

藤元議員 終わります。